



2014年度 学校案内



日本農業経営大学校

Japan Institute of Agricultural Management

あなたの未来。 農業の未来。 日本の未来がここにある。

農業に期待される役割は、ますます高まっています。
誰もが安心して食べることのできる、安全で美味しい食を守ること。
地域経済、地域社会に活力を与えること。
今こそ、農業経営者が新しい価値を創造していく時代です。

日本農業経営大学校は、熱意と志を持ったあなたに
一流の農業経営者、地域農業のリーダーへと育ててもらいたい。
そのために、様々な工夫をこらした教育を提供します。

あなたが一步踏み出すことで、日本の農業は可能性を広げる。
日本の未来は、あなたと共に育つのです。

日本の農業を切り拓く、農業経営者へ

日本農業経営大学校が目指す人材像

ますます広がる農業の可能性に対応しうる、多様な個性を育みます。
農業経営者、そして地域農業のリーダーへの成長を目指し、様々な能力を養います。



- 在学中に、学生自らが経営の将来ビジョンおよび到達目標を定め、さらに卒業後は、それぞれの現場で不断の実践を重ねることで、目指す人材像の実現を目指します。
- 本校では、在学中のみならず卒業後も、継続的な学習の機会を提供することにより、目指す人材像への到達を支援します。

日本農業経営大学校 概要

- 開校** 2013年4月 **校舎立地** 東京・品川 (JR品川駅徒歩10分)
- 学生数** 20名/学年 **全寮制** 東京近郊で学生寮(食事付き)を完備
- 運営母体** 一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン
- 校長** 岸 康彦
- 教育期間** 2年(講義・演習+現地実習)
- 募集対象** 未来を切り拓く農業経営を志す者
*詳細はP23をご覧ください。

学生の皆さんへメッセージ 日本農業経営大学校があなたに望むこと。



理事長
浦野 光人

農業界、産業界、学界がスクラム。 オールジャパンの体制で人材育成に取り組む。

日本の農業を活性化させるには、農業者自らが「生産者」から「経営者」へと意識を転換させ、時代の変化に柔軟に対応した経営を行う必要があります。

そこで、一般社団法人アグリフューチャー・ジャパンは日本農業経営大学校を設立しました。

本校では、農業界、産業界、学界がバックアップするオールジャパンの体制で、次世代の農業経営者を育成します。

農業の活性化は地域経済に好影響をもたらす、また国土や自然の保全にも繋がるものとして、大きな期待が寄せられています。

このような農業には夢を持ち、農業に新たな価値を生み出すことのできる人材が不可欠です。

本校で学ぶ学生が行動力にあふれた農業経営者として成長し、

地域経済や産業界を牽引するリーダーとなることを期待しています。

農業を先導する人材が生まれる

グローバル化時代を切り拓く力を身に付け、 日本農業の明日を担う人材を育成する。

新しい時代に向けて、新しい農業を切り拓く、その原動力は「人」です。

日本農業経営大学校では、少数精鋭の授業を通じて、農業経営者そして地域農業のリーダーを育成します。

農業界、産業界、学界などから選ばれた多彩な講師陣が、学生の一人ひとりに向き合い、グローバルな視点や発想力、リーダーとなる人間力、自然を相手に取り組む農業という仕事の奥深さや情熱をお伝えします。

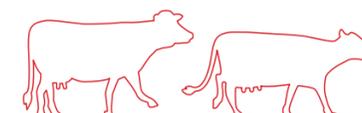
次世代の農業経営者は、世界的な視野でネットワークを構築し、地域で実践していくものです。

そのため、本校は、消費者や企業とも連携する、社会に開かれた学校として活動を展開します。

農業は、明確な目標を持って経営に当たれば様々な可能性が広がる魅力的な産業です。

本校で学ぶ皆さんが、日本農業の新たな1ページを開く存在になってください。

校長
岸 康彦



本校で育む4つの力 農業経営の理論と実践力を育む教育システム が、本校にはあります。

基本方針

時代が大きく変化中、未来を担う農業者には「経営力」「農業力」「社会力」およびそれらの根幹をなす「人間力」がますます求められてくる。

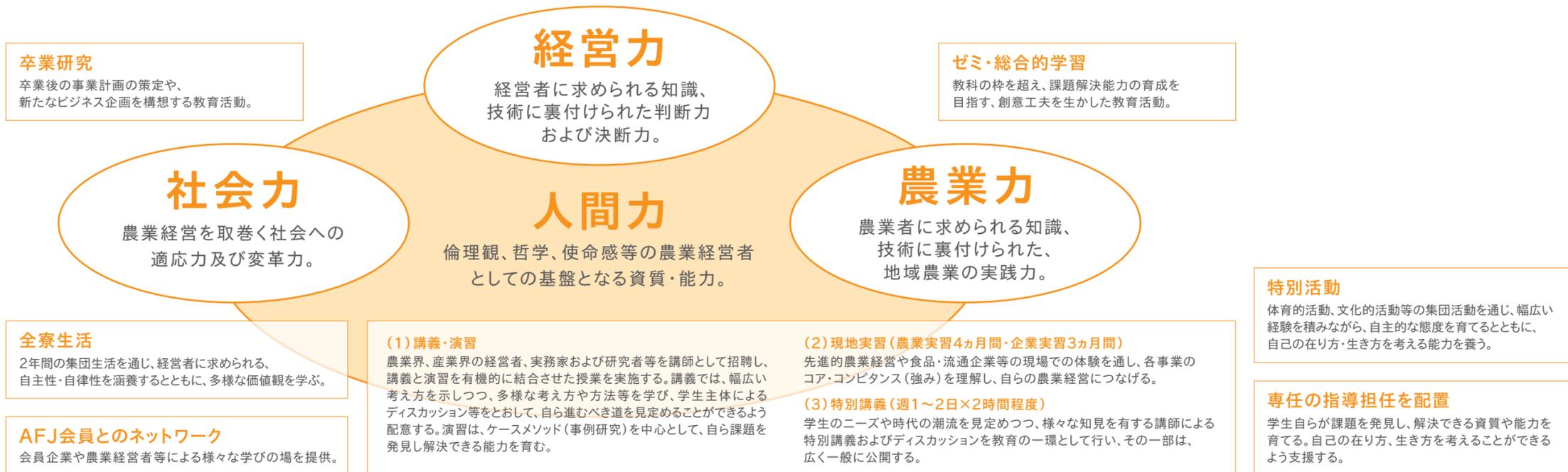
本校は、これまでにない新たな教育理念やカリキュラムを定め、これら4つの力を涵養し、グローバル化時代を切り拓く農業経営者教育の実践を目指す。

カリキュラムの編成方針

本質的な内容の確実な定着を図るとともに、時代の変化および学生のニーズに適切に対応したカリキュラムを編成する。

- ① カリキュラムは、講義、現地実習、ゼミ、総合的学習、卒業研究および特別講義等で構成する。
- ② 講義の領域は、「経営力」「農業力」「社会力」および「人間力」で構成し、各領域の下に学群を設け、各学群の下に科目を設ける。

農業経営者 へと成長できる学びの場が、ここにある



授業紹介【経営力】

経営者に求められる本質的な知識や技法を学び、経営者としての判断、決断ができる資質、能力、態度を育む。

21単位

学群	科目	主な講師陣	概要
経営力 入門	農業者のための経営学入門 【1年次前期】	上原 征彦 (明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科教授) 南石 晃明 (九州大学大学院農学研究院教授)	経営力領域のオリエンテーション的な科目であり、資本主義の精神と論理を学び、経営者としての幅広い思考力を身に付けることを目的とする。また、実務家の講義を通じて実践的な経営思想についても学ぶ。
	農業・食の経営戦略 【1年次前期・後期】	上原 征彦 (明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科教授)	農業経営における競争優位を見出し、戦略を立案し、意思決定する力と実行力を養う。ケースメソッドを活用するとともに、優れた農業経営者とのディスカッションを深め、より現実的な問題にアプローチしていく。
経営戦略	農業経営と情報マネジメント 【1年次前期】	南石 晃明 (九州大学大学院農学研究院教授)	農業生産管理から経営判断まで幅広い意思決定領域を対象に、情報の収集・加工・活用の理論と方法について理解を深め、情報マネジメント能力を養う。各分野の実務家をゲスト講師とし、演習も取り入れた授業を行う。
	農業経営学 【1年次後期】	南石 晃明 (九州大学大学院農学研究院教授)	国際的な視野に立って農業経営管理の理論と方法を学ぶ。多様な農業経営の発展過程とその経営管理を理解し、実践的な農業経営管理手法を身に付ける。農業経営者をゲスト講師とし、演習も取り入れた授業を行う。
	情報戦略の理論と実践 【1年次後期】	高橋 一貢 (慶應義塾大学総合政策学部講師)	経営・マーケティング活動において、イノベーションの実現、新たなリレーションの構築、農産物の販売手法の拡充等、情報の戦略的活用法を実践的に学習する。ケーススタディや実践者の講演等を取り入れた授業を行う。
	中小企業の経営 【2年次前期】	中小企業経営者 ほか	中小企業家としての経営理念、経営指針、経営戦略の組み立てや、意思決定、人材採用・育成について、大企業の視点ではない、中小企業の視点で論ずる。授業は、実際の経営者の講義も交えて進めていく。
	農業・食の経営組織 【2年次後期】	納口 るり子 (筑波大学大学院生命環境科学研究科教授)	農業経営を人的組織として把握する必要性、人的資源管理の視点の農業経営への適用等について論じる。また、ネットワーク型の経営間組織についても考察する。農業法人の経営者を含む実務者による講演も想定している。
	消費者の心理と行動 【1年次前期】	神谷 渉 (公益財団法人流通経済研究所 主任研究員/ コンサルティンググループリーダー)	消費者が買物や、所有、商品の使用といった消費活動を行う際に、どのような要因が存在し、どのように影響し合い、どのような結果が生じるのかを学ぶ。簡単な実習を通じてマーケティングリサーチの基礎を習得する。
販売・ マーケティング	食農連携マーケティング 【1年次前期・後期】	三村 優美子 (青山学院大学経営学部教授)	自然景観、食文化、農業を一体的に捉え、地域社会・農業の価値を活かす新しいマーケティングの枠組みを理解する。基本的な考え方から、実践に至るまで、現場視察や事例研究、実務家による講演と討議を通じて学ぶ。
	食品流通論 【1年次後期】	大塚 明 (日本スーパーマーケット協会専務理事) 高橋 佳生 (公益財団法人流通経済研究所常務理事)	流通の定義・概念、社会的な役割・機能について、具体的な事例を交えて学ぶ。また、流通チャネルの変革や、国際化、法規制といったトレンドにも触れる。農業・食品産業にかかわる流通情勢についての講義も実施する。

学群	科目	主な講師陣	概要
会計・ マネジメント	農業経営の会計・ファイナンス 【2年次前期】	森 剛一 (税理士、アグリビジネス・ソリューションズ㈱代表取締役)	農業経営を数字で把握する能力を磨き、経営計画を策定するスキル、的確な投資判断や資金調達をするための手法を身に付ける。演習方式により、経営の課題を学生間で討議し、財務諸表の見方や経営分析の手法を学ぶ。
	農業経営のリスク管理と社会的責任 【2年次前期・後期】	池戸 重信 (宮城県産業技術総合センター副所長) 久保利 英明 (弁護士、日比谷パーク法律事務所代表) 武田 泰明 (NPO法人日本GAP協会専務理事)	農業は2次、3次産業以上に多様な経営リスクにさらされ、リスク管理が経営の命運を左右する。主要なリスクとそれらへの対処方法を習得し、コンプライアンス(法令順守)とCSR(企業の社会的責任)について学ぶ。
	経営者の法律 【2年次後期】	須藤 英章 (弁護士、東京富士法律事務所代表) 足立 学 (弁護士、東京富士法律事務所) 須賀 一也 (公認会計士、須賀公認会計士事務所)	農業経営に必要な法律の知識について、実際の事例をもとにしたケースメソッドを通じて学習する。法律をただ暗記するのではなく、法律の考え方や捉え方、その適用・利用を的確に行うことができる能力を養う。
事業創造・ イノベーション	ナレッジマネジメント 【1年次後期】	野中 郁次郎(一橋大学名誉教授) 梅本 勝博 (北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科教授)	組織経営における知のマネジメントの理論的枠組みと実践方法について理解する。経営を知的創造・共有・活用のプロセスとして捉え、その理論的モデルと実践戦略・手法、情報技術の活用、リーダーの役割などを論じる。
	サービスマネジメント 【2年次前期】	梅本 勝博 (北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科教授)	サービスの本質と重要性を理解しサービスイノベーションに必要な概念と方法論を学ぶ。サービスマーケティング、農業におけるサービス事業の実例等を学んだ上で、自らの将来のサービスイノベーションをデザインする。
	イノベーション実践論 【2年次前期】	丹羽 清(東京大学名誉教授)	イノベーション(新軌道への変更、あるいは、創造的破壊)とは何か、なぜそれが必要かを理解し、イノベーション実現上の主要な課題と解決方法を習得して、イノベーション実現に向けて挑戦できる能力と意欲を養う。
	農業経営改革実践論 【2年次後期】	近藤 修司 (北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科客員教授)	改革実践力の高い人材を育成することをねらいとし、人間力と技術力を駆使して、価値の創造をプロデュースできる未来創造型の改革人材を育成する。4画面思考法を体得して、自分の改革実践提案書を構築し、実践する。



農業の未来を拓くには、経営力が必要です。

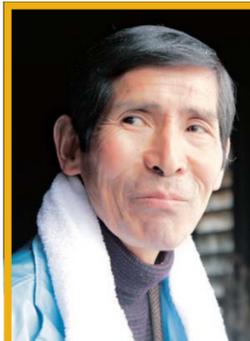
上原 征彦 明治大学専門職大学院教授

これからの農業に欠かせないのが経営力です。経営力を学ぶことで、新たな農業に挑戦できたり、地域を活性化したり、食の可能性を広げたり、未来が希望であふれます。そのためにも、農業を経営していくのに必要な知識、経営者に求められる判断力と決断力を身に付けていきましょう。

授業紹介【農業力】 農業者に求められる本質的な知識を身に付けた上で、地域農業を牽引し、持続・発展させうる農業の実践力に関わる資質、能力、態度を育む。 12単位

学群	科目	主な講師陣	概要
農業力入門	日本農業論 【1年次前期】	津野 幸人(鳥取大学名誉教授)	現代の日本農業は、工業化社会の進展に伴う農業の担い手の減少、零細な営農規模、食料自給の破綻、環境問題等の諸課題を抱えている。この情勢下での農業の生き残り戦略と食料自給率の向上、環境修復についての基本的視点を学ぶ。
生物と農業	生物と農業生産Ⅰ 【1年次前期】	塩谷 哲夫(東京農工大学名誉教授) 平澤 正(東京農工大学大学院農学研究院教授) 北条 雅章(千葉大学環境健康フィールド科学センター准教授)	農業は、生物の営みを利用して人間に有用な生産物を得る生命産業である。農業経営者は、工業生産とは異なる農業生産の特質を正しく理解し、植物や動物を科学の視点で観察する目が求められる。このため、植物・動物を健全に栽培・飼育し、生産能力を高めるために必要となる基本的・本質的な知識を身に付ける。生物と農業生産Ⅰでは、農業生産の概論と作物及び野菜について学び、生物と農業生産Ⅱでは、畜産、果樹及び花きについて学ぶ。
	生物と農業生産Ⅱ 【1年次後期】	小林 信一(日本大学生物資源科学部教授) 間苧谷 徹(元農林水産省果樹試験場長) 渡辺 均(千葉大学環境健康フィールド科学センター准教授)	
資源・環境と農業	資源・環境と農業生産Ⅰ 【1年次後期】	陽 捷行(公益財団法人農業・環境・健康研究所農業大学校長、北里大学名誉教授) 莊林 幹太郎(学習院女子大学国際文化交流学部教授) 金子 美登(NPO法人全国有機農業推進協議会理事長、霜里農場代表) 長谷川 利弘((独)農業環境技術研究所上席研究員) 根本 久(保全生物防除研究事務所代表) 宇根 豊(元NPO法人農と自然の研究所代表理事)	地球の水・大気・土壌等の環境資源には限りがある。世界の人口を養うためには、農業が持つ物質循環機能を活かし、環境と調和した農業生産を持続的に行わなければ人類の未来はこころもとない。このため、環境資源、エネルギー等の問題を理解して農業経営を営む必要性を学ぶ。資源・環境と農業生産Ⅰでは、農業と資源・環境との関係、大気環境、植物防疫、生物多様性等について学び、資源・環境と農業生産Ⅱでは、土壌環境、堆肥と土づくり、農業と資源・エネルギーについて学ぶとともに、有機農業の実践者等から様々な取り組みの実践例を学ぶ。
	資源・環境と農業生産Ⅱ 【2年次前期・後期】	陽 捷行(公益財団法人農業・環境・健康研究所農業大学校長、北里大学名誉教授) 小川 吉雄(鯉淵学園農業栄養専門学校教授) 橋本 力男(堆肥・育土研究所代表) 業師堂 謙一((独)農業・食品産業技術総合研究機構バイオマス研究統括コーディネータ) 小林 久(茨城大学農学部教授) 菅野芳秀(農業者、レインボープラン推進協議会相談役) 折戸 えとな(東京大学大学院) 相原 成行(有機農業実践者(神奈川県藤沢市)) 萩原 紀行(有機農業実践者(長野県八千穂村)) 金子 美登(NPO法人全国有機農業推進協議会理事長、霜里農場代表)	

学群	科目	主な講師陣	概要
食料・農業の政策と法律	日本の食料・農業政策 【1年次後期】	生源寺 真一(名古屋大学大学院生命農学研究科教授) 安藤 光義(東京大学大学院農学生命科学研究科准教授) (株)農林中金総合研究所	現代日本の食料政策と農業政策について、背景にある日本社会の構造変化や経済のグローバル化の流れを踏まえながら、基本的・包括的な知識を身につける。政策のあり方に関して建設的な提言にもつながるように、的確な鑑識眼を養う。
	世界の食料・農業政策 【2年次前期】	生源寺 真一(名古屋大学大学院生命農学研究科教授) (株)農林中金総合研究所 ほか	多くの先進国には農業保護政策という共通項があり、途上国にあつては農家が概して過酷な政策のもとにおかれる傾向がある。主要な先進国の食料・農業政策の骨格を学ぶとともに、成長著しいアジアの国々の政策の動向を把握する。
	食料・農業の法律 【2年次後期】	高木 賢(弁護士、元食糧庁長官) ほか	食料・農業に関する各分野の政策の枠組みを形成している食料・農業関係諸法律について、食料・農業に関する実態認識及びあるべき方向との関連の下に体系的に習得するとともに、食料・農業の法律に隣接する法領域についても学ぶ。



農業力を身に付け、地域を担うリーダーとなる。

金子美登 NPO法人全国有機農業推進協議会理事長・霜里農場代表

農業でエネルギーを注ぐのは、土づくり。作物やお米、家畜を育てる技術。そして、消費者につくったものをきちんと説明し、理解してもらおうことです。農業力では、農業経営者に欠かせない知識と実践力が身に付きます。農業と向き合うことで人とつながり、地域を背負っていく。そんなリーダーを目指し、学んでください。

授業紹介【社会力】 農業経営者に求められる農業経営環境や諸制度を中心に学び、環境に適応し、かつ環境を創造しうる資質、能力、態度を育む。

10単位

学群	科目	主な講師陣	概要
社会力入門	フードシステム論 【1年次前期】	中嶋 康博 (東京大学大学院 農学生命科学研究科教授) 中嶋 晋作(明治大学農学部専任講師)	これからの行く末を見通すために、食と農、それらを支える社会的枠組みの現状と課題を、フードシステム の概念を通して学ぶ。食生活の変化、食をめぐる産業、 社会的に必要とされる制度の実態と背景を経済学的 視点に基づいて、理解して考察できる思考方法と 専門知識を身に付けることを目的とする。
	食生活と食文化 【1年次後期】	武見 ゆかり (女子栄養大学栄養学部教授)	地域で生活する人々の多様な「食の営み」を、環境要因 も含め構造的に整理し、生活の質(Quality of Life)の 向上につながるような望ましい食生活やライフスタイル について理解するとともに、国際的にも評価が高い 日本の伝統的な食事パターンや食文化についての 理解を深めることを目的とする。
消費者・ 食生活・ 食文化	食品産業と農業 【2年次前期】	岸 康彦(日本農業経営大学校長) ほか	食品産業は、本来的に農業と切っても切れない間柄 である。グローバル化によって外国農産物の利用が 増える一方で、国産農産物への期待も大きい。この 授業では、食品産業の歴史と現状を知り、どうすれば 日本農業との関係をより良いものにできるかを考える。
	消費者運動と食・農の パートナーシップ 【2年次前期】	林 薫平 (公益財団法人生活協同組合研究所研究員) 山本 伸司 (パルシステム生活協同組合連合会理事長) 阿南 久 (前全国消費者団体連絡会事務局長) 芳賀 唯史 (日本生活協同組合連合会専務理事)	農業者の経営発展には、消費者との信頼関係の 構築が不可欠になる。本講義では、消費者運動の 歴史をたどり、今後の農業経営の発展のために 必要な消費者との関係づくりについて考察する。 消費者団体や生協の実践者のゲスト講演を交え、 受講者で意見を出し合い、議論する。

学群	科目	主な講師陣	概要
農村地域の 活性化	農山村の再生戦略 【1年次前期・後期】	小田切 徳美(明治大学農学部教授) 荏林 幹太郎 (学習院女子大学国際文化交流学部教授) 筒井 一伸(鳥取大学地域学部准教授) 橋口 卓也(明治大学農学部専任講師) 横平 龍宏 (名古屋経済大学経済学部准教授) 関司 直也 (法政大学現代福祉学部准教授) 神代 英昭(宇都宮大学農学部准教授) 山浦 陽一(大分大学経済学部准教授) 佐藤 真弓(明治大学農学部助教)	農山村をめぐる課題は、農業や産業・経済のみでなく 多面的である。「生活」「資源」「コミュニティ」を含め、 その総合的な状況の中で、地域の再生をいかに進めて いくかを考えなくてはならない。政策のあり方や農業 経営者として(あるいは集落の一員として)の振る 舞い方を含め、自らの地域の内発的発展を実現する 理論と実践(基準)を身に付けることを目的とする。
	協同組合論 【1年次後期】	小林 元 (一般社団法人JC総研主任研究員) 石田 正昭 (三重大学大学院生物資源学研究所 特任教授) 北川 太一(福井県立大学経済学部教授) 松岡 公明(一般社団法人JC総研理事) ほか	協同組合は、歴史的に大きな役割を果たしてきたが、 協同組合に対する社会の理解は必ずしも高いとはい えない。そこで本講義では、協同組合について、 ①「協同組合とは何か?」、②「協同組合の目的」、 ③「協同組合の課題」を学び、受講者自身が協同 組合とどのように接していくか、主体的に考える力を 身に付けることを目的とする。
	集落営農と JA出資型農業法人 【2年次前期】	小林 元 (一般社団法人JC総研主任研究員) ほか	集落営農の取り組みの特徴とその意義を理解する ことを目的とする。集落営農の取り組みは地域の 実態に合わせて多様な発展がみられることから、 その地帯構成区分に注目して、さまざまな事例と そのリーダーたちの声を実際に聴くことを重視する。
	農山村の女性活動 【2年次前期】	安倍 澄子 (一般社団法人農山漁村女性、 生活活動支援協会調査研究課長)	農業経営をとりまく変化に適応し、また、その変革に 向けて農山村女性が取り組む活動状況や問題・課題 を理解するとともに、女性活動が地域活性化に連動 するための取り組み方や活用すべき諸制度を学び、 地域社会の新たな動きを創り出す資質・能力を身に 付けることを目的とする。
	地方行政との 連携・協働 【2年次後期】	地方自治体の首長経験者等	自治体と農業の連携・協働する先進モデルのケース スタディや自治体首長経験者等の講義を通して、 次世代農業経営者として自らが主体となり、自治体 を活用し環境を変えて、自らのビジョンを実現させ るための力を身に付ける。講義の講師には、自治体 の首長経験者などを招聘する。



地域のイノベーションクリエーターとして

安倍 澄子 一般社団法人農山漁村女性・生活活動支援協会調査研究課長

これからの農業経営者には、地域農業のイノベーションを創る力が求められています。そのためには、地域資源(自然・農産物・景観・人材)を活かす方策・諸制度を学ぶ。フードシステムや他産業・異業種の状況を知る。消費者ニーズを知る。まさに多様化する社会の今を学ぶことを通じて、地域を支え・創造する「社会力」を身につけてください。



授業紹介【人間力】 農業経営者に求められる倫理観、哲学、使命感を学び、それらを深化、統合、発展していく資質、能力、態度を育む。

9単位

学群	科目	主な講師陣	概要
人間力入門	経営者のための経済学 【1年次前期】	小野澤 康晴 (㈱農林中金総合研究所 調査第一部副部長)	経営者としての人間力を高めるという観点から、標準的な経済理論だけでなく、経済環境や経済学自体の変化などもあわせて学び、経営者にとって不可欠な、外部経済環境の把握力を高めるための一助とすることを目的とする。
	経営者のための社会学 【1年次前期】	立川 雅司(茨城大学農学部教授) 原 珠里(東京農業大学国際食料情報学部教授) 三浦 展(社会デザイン研究者、 ㈱カルチャースタディーズ研究所 代表取締役)	経営者が生活する農村や都市は、経済的原理だけでは割り切れない慣習や社会的約束事に満ちている。経営者が理解しておくべき社会現象や背景にある社会動向を社会的観点から解説し、経営者が身に付けるべき社会的センスを磨く。
	経営者のための哲学 【1年次後期】	大平 浩二(明治学院大学経済学部教授)	次世代農業経営者としてわが国の農業を担うために必要な思考上の基盤を身につけ、経営者としての意思や哲学そして農業観を磨く。第一線で活躍する各界の経営者の経営思想・経営哲学に触れつつ、自らの農業経営のあり方を考える。
	経営者のための英語力 【1年次後期】	黒川 恵子(英語通訳)	農業経営に必要な情報がグローバルに行き来する現在、情報を直接読み解く技能が必要であり、実践的英語の基礎力を身に付ける。英語と日本語の発想・表現の違い、交渉の仕方の違いを知り、英語を自分なりに利用・応用する方法を学ぶ。
	経営者のための心理学 【2年次前期】	野田 稔(明治大学専門職大学院 グローバル・ビジネス研究科教授) 浜田 正幸(多摩大学経営情報学部教授) 河合 太介(経営コンサルタント、 株式会社道(タオ)代表取締役)	農業従事者のモチベーションやキャリアを考え、適切に対処する知識と技術を習得する。また、地域社会のコンフリクトの解消や合意形成の際に働く集団心理的な力を理解し、コンフリクト解消から合意形成に至る技術を身に付ける。
リーダーシップ	経営者としての リーダーシップ 【1年次後期】	古山 和宏 (公益財団法人松下政経塾塾頭)	リーダーに必要な資質を認識し、自らの経営を取り巻く人々からの信頼、協力を得られるような経営者を目指す。リーダー育成の専門家から必要となる普遍的な考え方や哲学を学び、実践的なリーダーシップを経営者の実績、経験から学ぶ。

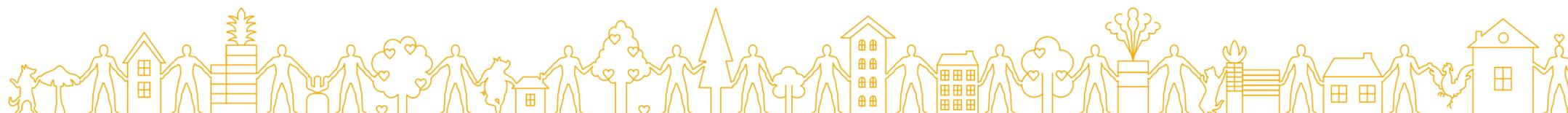
学群	科目	主な講師陣	概要
リーダーシップ	地域・農村の リーダーシップ 【2年次前期】	門間 敏幸 (東京農業大学国際食料情報学部教授) 鈴木 源太郎 (東京農業大学国際食料情報学部准教授)	農業経営者は、地域の持続的な発展の中に自らの経営を位置づけ、地域の農家とともに発展していく共生の思想が求められる。農村の先駆的リーダーの取り組み等から、地域・農村のリーダーシップの特質と特異性を明らかにする。
グローバル発想	日本農業史 【2年次前期】	坪井 伸広 (元筑波大学大学院 生命環境科学研究科教授)	幕末の開国とその後の西欧近代化にもかかわらず1950年代まで基本的に変わらなかった日本の食生活・農業・農村が、60年代以降急激に変貌した意味を、日本農業の歴史を学ぶことにより理解し、農業の未来を読み解くための視野を広げる。
	世界の食料と貿易 【2年次後期】	原 弘平 (㈱農林中金総合研究所常務取締役) 佐藤 博(元米国全農組質 筆頭副社長) 三石 誠司(宮城大学食産業学部教授) 木下 寛之(元農林水産審議官、 元(独)農畜産業振興機構理事長) ㈱農林中金総合研究所	世界の食料事情は、途上国での食料不足と先進国での生産過剰という飢餓と飽食の並存構造にあり、現代の食料問題は貿易の視点を除いては考えられない。世界の食料事情と農産物貿易を学び、農業の未来を読み解くための視野を広げる。



♡ 指導者、経営者としての資質を磨く。

古山 和宏 公益財団法人松下政経塾塾頭

リーダーの資質として、まず大切なことは「人間を知ること」です。知識に振り回されず、現地現場に立脚し、人情の機微を理解しなければなりません。その上で、自分自身を磨き、私利私欲を超えて、経営の基本理念を確立することが求められます。本講座を通じて、皆さんが経営の要諦をつかむお手伝いができれば、幸いです。



特別講義など

<p>浦野 光人 株式会社ニチレイ代表取締役会長</p>	<p>大西 茂志 全国農業協同組合中央会常務理事</p>	<p>荻原 昌真 有限会社信州ファーム荻原農場長、 前全国農業青年クラブ連絡協議会会長</p>	<p>長田 竜太 日本キヌカ株式会社代表取締役社長</p>	<p>鎌田 真悟 株式会社恵那川上屋代表取締役社長</p>	<p>姜 明子 株式会社オレンジページ常務取締役</p>
<p>木内 博一 農事組合法人郷園代表理事</p>	<p>黒澤 賢治 JA-IT研究会副代表</p>	<p>後藤 和明 らでいっしょぼーや株式会社農産部長、 Radixの会常務理事</p>	<p>小林 芳雄 元農林水産事務次官、 株式会社農林中金総合研究所顧問</p>	<p>小宮山 宏 プラチナ構想ネットワーク会長、 三菱総合研究所理事長、東京大学総長顧問</p>	<p>五味 廣文 元金融庁長官、株式会社プライスウォーター ハウスコーパス総合研究所理事長</p>
<p>坂上 隆 株式会社さかうえ代表取締役社長</p>	<p>佐野 泰三 カゴメ株式会社常務執行役員</p>	<p>澤浦 彰治 株式会社野菜くらぶ代表取締役社長、 グリーンリーフ株式会社代表取締役社長</p>	<p>嶋崎 秀樹 有限会社トップリバー代表取締役社長</p>	<p>杉山 経昌 葡萄園スギヤマ代表、「農で起業する!」著者</p>	<p>永井 進 株式会社永井農場代表取締役社長</p>
<p>野村 一正 農政ジャーナリスト、元食品安全委員会委員</p>	<p>長谷川 久夫 株式会社農業法人みずほ代表取締役社長</p>	<p>福永 庸明 イオンアグリ創造株式会社代表取締役社長</p>	<p>佛田 利弘 株式会社ぶった農産代表取締役社長</p>	<p>牧 秀宣 有限会社ジェイ・ウイングファーム 代表取締役社長</p>	<p>松岡 義博 公益社団法人日本農業法人協会会長、 株式会社ココファーム代表取締役会長</p>
<p>水落 重喜 農事組合法人きのこの里理事長</p>	<p>三森 かおり 有限会社ぶどうばたけ取締役</p>	<p>茂木 友三郎 キッコーマン株式会社取締役名誉会長</p>	<p>山崎 洋子 前NPO法人田舎のヒロイン わくわくネットワーク理事長</p>	<p>山下 真輝 株式会社ジェイティービー旅行事業本部 観光戦略室観光立国推進担当マネージャー</p>	<p>山田 敏之 こと京都株式会社代表取締役社長</p>

※氏名の掲載順は五十音順です。

新たな出 会いが、あなたと農業の可能性を広げる

農業実習

- ① 1年次に実施、4ヵ月。
- ② 先進的な農業経営体へ派遣。
- ③ 派遣先では農業実習に加えて、経営者の同行実習や幹部ミーティング等への出席を通じ、経営者の仕事を学ぶとともに、当該経営体や地域のコア・コンピタンスを分析する。
- ④ 行き先は学生側の希望を基に、個別に調整する。
- ⑤ 研修受入可能先
(例) 霜里農場、株式会社ココファーム、グリーンリーフ株式会社、和郷園、株式会社ぶった農産、有限会社ジェイ・ウイングファーム、こと京都株式会社、サカタニ農産、株式会社六星、有限会社トップリバー、株式会社さかうえ、株式会社TKF、ほか多数

企業実習

- ① 2年次に実施、3ヵ月。
- ② 食品メーカーや流通企業等を中心とした企業への派遣実習。
- ③ 派遣先では、流通企業等であれば店頭販売実習やバイヤーとの同行実習、食品メーカーでは商品開発や消費者ニーズの調査など。
- ④ 行き先は学生側の希望を基に、AFJの会員企業を中心に個別調整。



2年間のスケジュール 学びを実践に生かす仕組みがあります。

自らの選択で広がるプログラム



※自家が農業を営む者は原則3ヵ月以上、それ以外の者は原則6ヵ月以上。
高等学校卒業見込み者は1年程度の事前農業実習が必須。詳しくはP23をご覧ください。

1年次 >>>

入学前	入学 4月 → 6月	7月 → 10月	11月 → 12月	1月 → 3月
事前農業実習	目標設定と課題認識ステージ			知識・技術習得と体系化ステージ
	講義・演習 基本的・本質的な知識の習得 <input type="checkbox"/> 農業経営者になるための基礎的・基本的な知識・情報を習得する。 <input type="checkbox"/> 卒業後の農業経営のあり方について仮説を立てる。	現地実習 先進農業経営体への派遣実習 <input type="checkbox"/> 先進的な農業経営を体感し、農業経営者となるための自らの課題、習得すべき知識や技術を理解・分析する。 ■ 取り組み① 未来の農業経営像を描く	講義・演習 講義・実習内容の取りまとめ+目指すべき農業経営モデルの設定 <input type="checkbox"/> 新しい知識と体験を元に将来目指す農業経営を設定し、自分の未来像を描く。 ■ 取り組み② 農業経営の分析(実習レポート)	講義・演習 各種スキル・ツールの習得 <input type="checkbox"/> 農業経営につながる応用的・実用的な知識・技術を習得する。 ■ 取り組み③ 例) 模擬経営(総合的学習)

農業と向き合い、農業経営の本質を見極める

2年次 >>>

4月 → 6月	7月 → 10月	11月 → 12月	1月 → 3月	卒業	卒業後
意思決定と決断ステージ				✨ ✨ 未来を切り拓く 農業経営を実践する。	農業経営への各種サポート フォローアップ研修(定期的に開催) 海外研修
講義・演習 知識・技術の体系化・総合化+農業経営の可能性を探求 <input type="checkbox"/> 幅広い視野で自らの農業経営がもたらすことのできる価値について考える。 ■ 取り組み④ 例) 地域のコアコンピタンス探し(総合的学習)	現地実習 農業外企業への派遣実習 <input type="checkbox"/> 企業での現地実習を通して農業の新たな価値・可能性と課題を発見する。 ■ 取り組み⑤ 企業経営の分析(実習レポート)	講義・演習 卒業後の経営計画策定 <input type="checkbox"/> 自らの生き方・あり方を含め、農業経営者としての道筋を見極める。 ■ 取り組み⑥ 農業経営者としてのあり方の整理	卒業研究 卒業後の経営計画策定 <input type="checkbox"/> 卒業後に自らが実践する経営計画を策定する。 ■ 取り組み⑦ 経営計画の発表		

※2013年4月現在で予定している教育計画です。

時間割例(1年生4月第3週目)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限目 8:40~9:55 (75分)	日本農業論	フードシステム論	農山村の再生戦略	生物と農業生産I	農業・食の経営戦略
2時限目 10:05~11:20 (75分)	日本農業論	フードシステム論	農山村の再生戦略	農業者のための経営学入門	農業・食の経営戦略
3時限目 11:30~12:45 (75分)	経営者のための経済学	消費者の心理と行動	1・2年合同ゼミ	農業者のための経営学入門	経営者のための社会学
昼食 12:45~13:45					
4時限目 13:45~15:00 (75分)	農業経営と情報マネジメント	食農連携マーケティング	特別講義	体育	経営者のための社会学
5時限目 15:10~16:25 (75分)	学年別ゼミ	文化活動	特別講義	体育	
6時限目 16:35~17:50 (75分)		文化活動			

※時間割例は一週間のイメージを示したもので、実際とは異なります。



校舎・寮のご案内

本校舎について

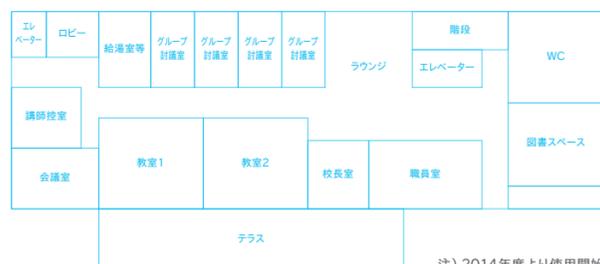
本校舎はビルの1フロアを当校の専用フロアとし、各種最新設備が導入されます。

グループ討議室

4名の担当教員が各部屋に配置。ゼミや卒業研究などを進めるとともに、学生の疑問や不安に対してもサポートします。

図書スペース

3千冊以上の関連図書が所蔵される予定です。調べ物がある場合、いつでも活用することができます。



所在地：品川駅
徒歩10分

本校舎レイアウト (イメージ)

注) 2014年度より使用開始

食堂

ビル内の別の階に用意。学生、学校関係者のみが利用できます。

ラウンジスペース/テラス

学生同士が集まり、研究テーマや授業の課題について議論できます。ゆっくりと休憩もできるスペースです。



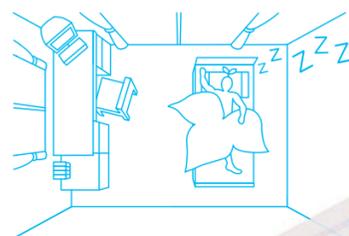
※画像はイメージです。実物とは異なる可能性があります。

この2年間があるからこそ大きく羽ばたける

寮について

日本農業経営大学校は、志の高い未来の農業経営者が集まる全寮制です。2年間の集団生活を通じ、経営者に求められる自主性・自律性を養います。日々議論を重ね、切磋琢磨し、多様な価値観を学んでください。

- 所在地：川崎市中原区 最寄り駅 武蔵中原駅
- 通学時間：約45分
- 居室：1人1部屋
- 居室設備：机、椅子、ベッド、収納スペース、エアコン、カーテン、電気スタンド、ゴミ箱、ベランダ (物干し台)
- 共用施設：食堂、風呂、トイレ、談話室、調理設備 (2か所)
- 共用設備：洗濯機、衣類乾燥機、下駄箱



- ▷寮母居住の安心な寮です。
- ▷各部屋でお持ちのパソコンからインターネットやメール等が可能です。
- ▷4階は女性専用フロア。さらに女性専用の談話室を完備。



学生用の調理設備を完備。



個室は清潔感の溢れる、勉学に適した空間。



洗濯機と洗面所を各階に完備。



食堂は学生全員の共用スペース。



談話室では夜遅くまで盛り上がる。



広々とした大きなお風呂。

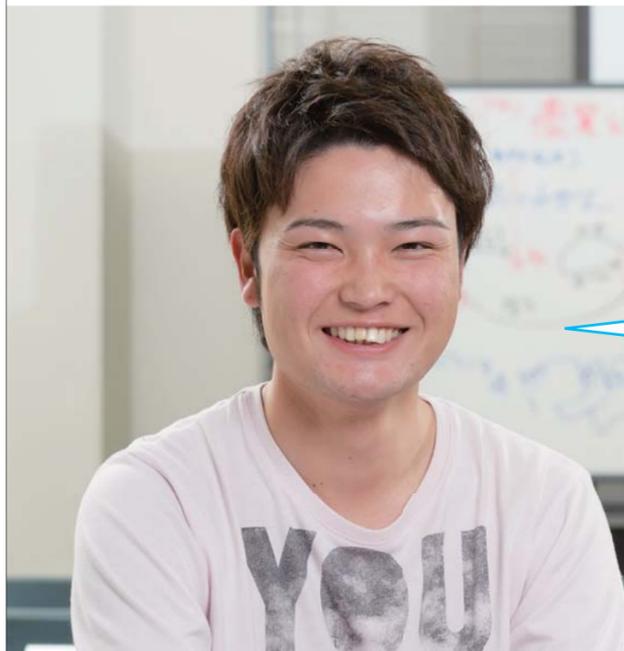
学生寮での食事について



朝・夕の2回、家庭的かつ栄養バランスのとれた飽きのこない食事を提供します。食材は、国産農産物を中心に鮮度や旬を意識して選定。食品アレルギーのある方には個別にメニューを考えます。



先輩たちに聞きました 日本農業経営大学校の先輩たちにインタビュー。



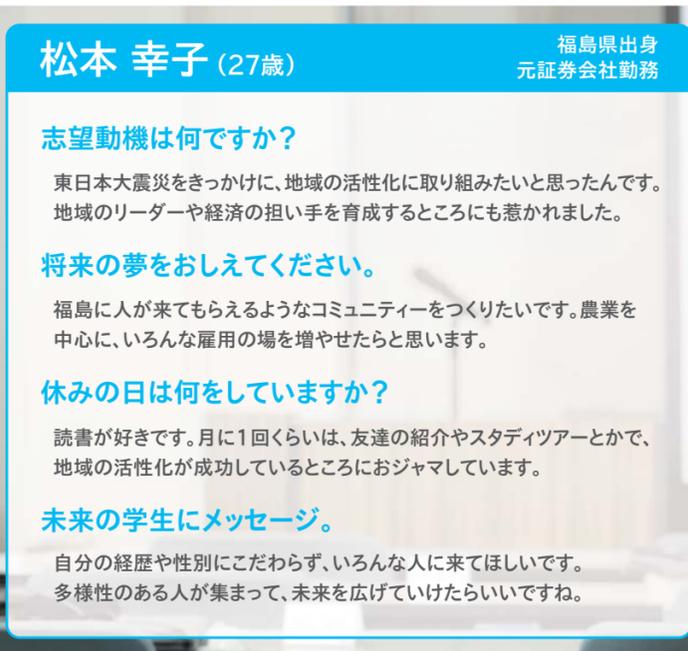
阿部 宏規 (20歳) 長野県出身
長野県農業大学校卒

志望動機は何ですか?
農業は技術と経営の両方が大事だと思います。だから、経営力を身につけて。いろんな人や企業から、モテる男にもなりたいです!

将来の夢をおしえてください。
地元の加工業者や運輸業者、小売店とかと協力して、地域活性化できる農業者をめざします。できれば、海外にも視野を広げたいです。

休みの日は何をしていますか?
長野に帰って農作業をしています。農業をやる!って決めたときから、お手伝いじゃなく仕事として。でも、冬はボードもいっぱい行きますよ。

未来の学生にメッセージ。
寮生活は楽しいですよ。お風呂は気持ちいいし、ごはんもおいしい。やっぱり共通の志がある仲間が集まるから、仲良くなれるんですね。



松本 幸子 (27歳) 福島県出身
元証券会社勤務

志望動機は何ですか?
東日本大震災をきっかけに、地域の活性化に取り組みたいと思ったんです。地域のリーダーや経済の担い手を育成するところにも惹かれました。

将来の夢をおしえてください。
福島に人が来てもらえるようなコミュニティをつくりたいです。農業を中心に、いろんな雇用の場を増やせたらと思います。

休みの日は何をしていますか?
読書が好きです。月に1回くらいは、友達の紹介やスタディツアーとかで、地域の活性化が成功しているところにお邪魔しています。

未来の学生にメッセージ。
自分の経歴や性別にこだわらず、いろんな人に来てほしいです。多様性のある人が集まって、未来を広げていけたらいいですね。

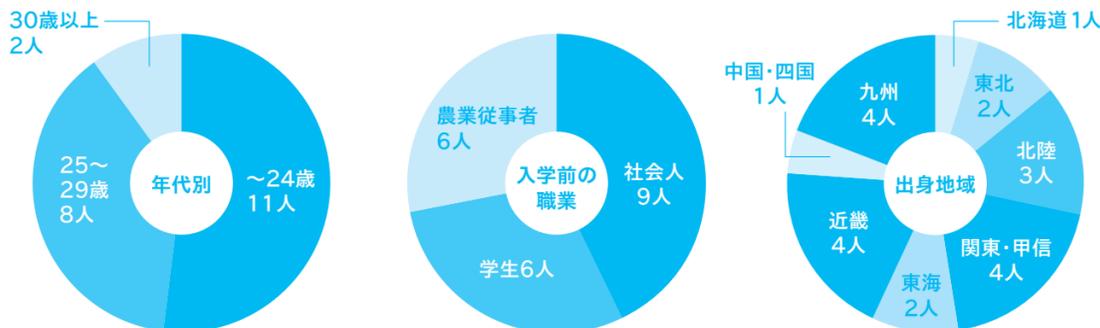
私たちが、日本農業を変える先陣となる

2013年度入学者アンケート

- | | |
|--|--|
| <p>Q1. 本校を志望した動機は何ですか?</p> <ul style="list-style-type: none"> カリキュラムが良かった 2名 全国に仲間ができる 6名 オールジャパンの支援体制がある 4名 周りから勧められた 7名 その他 2名 <p>Q2. 学費・生活費はどうしますか?</p> <ul style="list-style-type: none"> 親に負担してもらおう 7名 自分でやりくりする 13名 その他 1名 | <p>Q3. 卒業後の就農プランは?</p> <ul style="list-style-type: none"> 自家の農業を承継 10名 親戚等の農地を承継 4名 農業法人等へ就職 6名 独立就農 1名 <p>Q4. 自分でやりくりする方は、どのような方法で</p> <ul style="list-style-type: none"> 貯金から 7名 青年就農給付金を申請する 11名 アルバイトでまかなう 10名 教育ローン等を利用して、卒業後に返済 2名
(複数回答可) |
|--|--|

2013年度入学者属性

年齢や経験等、様々なバックグラウンドを持つ学生が全国から集っています。



募集・受験について

2014年4月と2015年4月に入学する学生を同時に募集します。

募集対象者 本校卒業後、独立就農、自家を含めた農業経営体に就農又は雇用就農し、農業に従事することが確実と見込まれる者で、未来を切り拓く農業経営を志す者

受験資格 ・高等学校を卒業した者、2014年3月卒業見込の者又はこれに準ずると認められる者
 ・入学する年の4月1日時点で19歳以上40歳以下の者
 ・入学までには一定の農業従事・農業研修経験を課す。

※自家が農業を営む者は原則3ヵ月以上、それ以外の者は原則6ヵ月以上 ※高等学校卒業見込み者は、1年程度 ※道府県農業大学校等の卒業生又は卒業見込み者は農業研修経験を充足している。※大学農学部の実習は、農業研修経験と見なし実日数で換算する。※農業研修は、作物の栽培、家畜の飼養、農畜産物の加工・流通・販売等に関する内容が基本となるもの、農業者との交流、農業現場の実態調査、農家見学など、直接農業・農村の現場に触れる活動も含む。

入学試験	出願期限	試験日	試験会場	試験の種類
I 期日程試験	6月27日(木)	7月13日(土)	東京	推薦入試、一般入試
II 期日程試験①	10月10日(木)	10月26日(土)・27日(日)	宮城、大阪、福岡	推薦入試、一般入試
II 期日程試験②	10月24日(木)	11月9日(土)・10日(日)	東京	推薦入試、一般入試
III 期日程試験	1月30日(木)	2月15日(土)	東京	一般入試

試験の種類 一般入試 : 書類審査、面接 推薦入試 : 面接のみ

受験費用 5,000円

未来の農業を担う

1

あなたが日本の農業を変える1人になる

本校2年間で必要な主な費用

入学金	なし
授業料	60万円/年 120万円<2年間>
寮費(朝・夕食あり)	約100万円/年 約200万円<2年間>
実習費用	選択する実習先により変動
合計	約320万円<2年間>

※その他:交通費・昼食代などが発生します。

助成金

青年就農給付金(準備型)	150万円/年 300万円<2年間>
--------------	--------------------

注:
 ①日本農業経営大学校は、全国型教育機関として認定されています。
 ②給付金の給付を希望する者は、給付金の事業実施主体に研修計画を提出し、承認を得る必要があります。
 ③給付金を受けた場合は、本校卒業後一定期間独立・自営就農又は雇用就農しないと給付金を返還しなければなりません。
 ④青年就農給付金事業については、要綱等を十分ご確認ください。

20人へ。

あなたの未来を大きく広げる、忘れられない2年間がはじまります。
 選ばれた20名だからこそ、未来を切り拓く農業経営者になれる。私たちは信じています。
 これからの農業に欠かせない存在。それが、あなたです。



よくある質問

Q1 日本農業経営大学校とアグリフューチャー・ジャパンはどのような関係ですか？

A. 日本農業経営大学校は、一般社団法人アグリフューチャー・ジャパンが運営する「私塾」です。従って、文部科学省が所管する学校法人とは異なりますが、その分農業経営者育成に特化した、フレキシブルかつ大胆な教育に取り組めます。

Q2 日本農業経営大学校を卒業することで、何らかの学位を得ることは出来ますか？

A. 本校は学校法人ではないため学位は得られませんが、本校を卒業すること自体が学位以上の価値を生み出せる、そのような学校を築いていきます。

Q3 高校卒業見込み者（高校3年生）ですが受験することは出来ますか？

A. 高校卒業見込み者も受験できます。ただし、合格者は1年間、先進的な農業経営体等での実習に取り組んで頂きます。従いまして、高校卒業見込み者については、実質的に3年間のカリキュラムとなります。

Q4 農業未経験者ですが本校へ入学できますか？

A. 高校卒業見込み者については既出のとおりです。それ以外の方については、入学までの間に、先進的な農業経営体等にて3ヶ月～1年程度の農業体験を積んで頂きます。

Q5 卒業後のフォローアップ体制はどうなっていますか？

A. 担当教員を4名配置するとともに、卒業後もフォローアップ研修や通信講座、さらには同窓会の設置等、様々な観点で農業経営の実践をサポートします。また、新規就農希望者に対しても、会員等の幅広いネットワークを活用した就農サポートに取り組めます。

Q6 他の農業者教育機関には無い、本校の強みは何ですか？

A. 「経営力」「農業力」「社会力」および「人間力」という、農業経営者に必要な能力をバランス良く育むことができます。また、全国レベルで農業を実践する仲間を持つこと、農業界・産業界・学界・行政等に幅広いネットワークを構築できることも大きな強みであると考えています。

あなたの一步を、たくさんの方が応援している

私たちは、一般社団法人アグリフューチャー・ジャパンを応援しています。

正会員

アサヒグループホールディングス株式会社	味の素株式会社	イオンアグリ創造株式会社
イズミヤ株式会社	エスピー食品株式会社	株式会社関西スーパーマーケット
キッコーマン食品株式会社	キュービー株式会社	株式会社極洋
サッポロホールディングス株式会社	株式会社J-オイルミルズ	昭和産業株式会社
スターゼン株式会社	宝ホールディングス株式会社	株式会社ニチレイ
日清オイリオグループ株式会社	株式会社日清製粉グループ本社	日本水産株式会社
日本製粉株式会社	日本ハム株式会社	日本デルモンテ株式会社
ハウス食品株式会社	株式会社パロー	株式会社阪食
プリマハム株式会社	丸大食品株式会社	株式会社マルハニチロホールディングス
株式会社明治	森永乳業株式会社	株式会社ヤオコー
山崎製パン株式会社	雪印メグミルク株式会社	横浜冷凍株式会社
株式会社ライフコーポレーション		
公益社団法人日本農業法人協会	農業者大学校同窓会	全国農業協同組合中央会
全国農業協同組合連合会	全国共済農業協同組合連合会	農林中央金庫
全国農業会議所	公益社団法人大日本農会	特定非営利活動法人全国有機農業推進協議会
金子 美登	佛田 利弘	株式会社野菜くらぶ
農事組合法人 和郷園	特定非営利活動法人日本GAP協会	一般社団法人日本食農連携機構
株式会社農林中金総合研究所		
生活クラブ事業連合生活協同組合連合会	日本生活協同組合連合会	パルシステム生活協同組合連合会

賛助会員

伊藤忠商事株式会社	オリックス株式会社	住友商事株式会社	丸紅株式会社	三井物産株式会社
三菱商事株式会社	株式会社アサソー ディ・ケイ	井関農機株式会社	王子ホールディングス株式会社	ゴールドバック株式会社
清水建設株式会社	住友化学株式会社	双日株式会社	ダイキン工業株式会社	株式会社電通
三井不動産株式会社	三菱地所株式会社	ヤンマー株式会社	レンゴー株式会社	岩谷産業株式会社
宇部興産株式会社	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	NTN株式会社	科研製薬株式会社	兼松株式会社
堺化学工業株式会社	昭和電工株式会社	神栄株式会社	住友不動産株式会社	大建工業株式会社
大成建設株式会社	太陽日酸株式会社	大和製罐株式会社	ダイワボウホールディングス株式会社	日本ユニシス株式会社
不二製油株式会社	ブライスウォーターハウスカーパス株式会社	ホクカンホールディングス株式会社	三井倉庫株式会社	
朝日工業株式会社	日野自動車株式会社	出光興産株式会社	イハラケミカル工業株式会社	株式会社インフォメーション・デイベロブメント
沖電気工業株式会社	片倉工業株式会社	協同乳業株式会社	協友アグリ株式会社	クミアイ化学工業株式会社
コープケミカル株式会社	正栄食品工業株式会社	すてきなイスグループ株式会社	株式会社西武ホールディングス	積水化学工業株式会社
積水ハウス株式会社	セントラル硝子株式会社	中越パルプ工業株式会社	株式会社なとり	日産化学工業株式会社
日本電気株式会社	日本アイ・ピー・エム株式会社	日本オラル株式会社	日本曹達株式会社	はごろもフーズ株式会社
株式会社日立製作所	富士通株式会社	北興化学工業株式会社	株式会社丸山製作所	三菱総研DCS株式会社
株式会社三菱総合研究所	ミヨシ油脂株式会社	名糖運輸株式会社	SBSホールディングス株式会社	豊田通商株式会社
トヨタホーム株式会社	フーズレック株式会社	三菱重工業株式会社	株式会社朝日工業社	三菱電機株式会社
株式会社ADEKA	石原産業株式会社	エム・アイ・コンサルティンググループ株式会社	片倉チッカリン株式会社	木徳神糧株式会社
クリナップ株式会社	ケンコーマヨネーズ株式会社	JA三井リース株式会社	JNC株式会社	シヤチ精機株式会社
昭和バックス株式会社	株式会社白子	住友ゴム工業株式会社	住友林業株式会社	高梨乳業株式会社
千葉製粉株式会社	東京定温冷蔵株式会社	東西産業貿易株式会社	東ソー株式会社	東洋精糖株式会社
東洋紡株式会社	株式会社永谷園	日建リース工業株式会社	日東ベスト株式会社	日本化薬株式会社
日本スーパーマーケット協会	日本農業株式会社	株式会社浜乙女	株式会社ヒューテックノリオン	フジパングループ本社株式会社
株式会社ベイシア	ボーソー油脂株式会社	保土谷化学工業株式会社	株式会社マルイ子産商	丸善食品工業株式会社
株式会社ミキモト	株式会社三菱ケミカルホールディングス	三菱UFJリース株式会社	株式会社ヤマタネ	株式会社やまびこ
ラサ工業株式会社	理研ビタミン株式会社	旭化成株式会社	伊藤忠アーバンコミュニティ株式会社	伊藤忠飼料株式会社
株式会社荏原製作所	株式会社オレンジページ	協同飼料株式会社	株式会社京成ストア	ケイヒン株式会社
国分株式会社	サムット株式会社	ジェイカムアグリ株式会社	株式会社JT Bコーポレートセールス	信越化学工業株式会社
新生紙パルプ商事株式会社	ソリマテ株式会社	大王製紙株式会社	T P R株式会社	東京豊海冷蔵株式会社
トキタ種苗株式会社	豊玉香料株式会社	南西糖業株式会社	日揮株式会社	日清丸紅飼料株式会社
日東富士製粉株式会社	日本甜菜製糖株式会社	日本酒類販売株式会社	日本農産工業株式会社	日本配合飼料株式会社
藤田観光株式会社	北海道糖業株式会社	三井化学株式会社	三菱瓦斯化学株式会社	株式会社吉野家ホールディングス
わらべや日洋株式会社				

一般社団法人アグリフューチャー・ジャパンが、「日本農業経営大学校」を運営しています。

